

102.これはわれがあなた（ムハンマド）に啓示した、幽玄界の消息の一つである。かれらが（ユースフに対する）計画を策謀した時、あなたはかれらと（その場に）いなかった。

103.仮令あなたが如何に望んでも、人びとの多くは信じないであろう。

104.あなたはそれ（使命）に対し、どんな報酬もかれらに求めない。これは、全人類への訓戒に外ならない。

105.天と地の間には、（アッラーの唯一性や神慮に関し）如何にも多くの印がある。かれらはその側を過ぎるのだが、それらから（顔を）背ける。

106.かれらの多くは、アッラーを多神の1つとしてしか信仰しない。

107.かれらに下るアッラーの懲罰が覆いかかることに対し、またかれらが気付かない間に突然来る時に対し、かれらは安心出来るのか。

108.言ってやるがいい。「これこそわたしの道。わたしも、わたしに従う者たちも明瞭な証拠の上に立って、アッラーに呼びかける。アッラーに讃えあれ。わたしたちは多神を信じる者ではない。」

109.われはあなた以前にも、町に住む者の中から（特に選んで）、われが啓示を受けた人間以外は、（預言者として）遣わさなかった。かれら（マッカの人びと）は、地上を旅して、以前の者たちの最後が、どんな（悲惨な）ものであったかを観察しているではないか。本当に主を畏れる者に対する、来世の住まいこそ最上である。あなたがたは悟らないのか。

110.（ムハンマド以前の）使徒たちが（遣わされた民のもとで）一切の希望を失った時、そしてかれら（使徒たち）が（不信仰者に対するアッラーからの勝利の約束の）期待が持てなくなったと思ひ込んだ時、われの助けがかれら（使徒）に下り、われの欲する者に救いは来るのである。只罪を犯した者は、わが懲罰は免れられない。

111.本当にかれらの物語の中には、思慮ある人びとへの教訓がある。これは作られた事柄ではなく、以前にあったもの（啓典）の確証であり、凡ゆる事象の詳細な解明であり、また信仰する者への導き、慈悲ともなる。

SURA 13.雷電章 [アッ・ラアド]

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

1.アリフ・ラーム・ミーム・ラー。これは啓典の印である。そしてそれは主から、あなたに啓示された真理である。だが人びとの多くは信じない。

2.アッラーこそは、あなたがたには見える柱もなく、諸天を掲げられた方である。それからかれは、（大権の）御座に鎮座なされ、太陽や月を従わせられる。（だから）各々の定められた時期まで運行する。かれが凡ての事物を規制統御し、種々の印を詳しく述べられる。必ずあなたがたに主との会見に就いて確信させるためである。

- 3.かれこそは大地を広げ、その上に山々や河川を配置された方である。またかれはそこで、凡ての果実を2つ（雌雄）の対になされた。また夜でもって昼を覆わされる。本当にこの中には、反省する人びとへの印がある。
- 4.また地上には、隣り合う（が相異った）地域がある。ブドウの園、穀物の畑、一つの根から出た、またはそうでないナツメヤシの木、同じ水で灌漑されても、食物としてあるものを外のものよりも優れたものになさる。本当にこの中には、理性ある人びとにとって印がある。
- 5.もしあなたが不思議に思うのなら、「わたしたちが（現実）に土になった時、わたしたちは本当に新しく創造されるであろうか。」とかれらの言うことこそ不思議である。これらは主を信じない者である。かれらはその首に枷がかけられる火獄の仲間、その中に永遠に住む者である。
- 6.かれらは（多くの）見せしめの例がかれら以前にあるのにあなたに幸福よりも、寧ろ災厄を急いで求める。しかしあなたの主は人間の悪い行いに対し本当に寛容であり、またあなたの主は、懲罰にも本当に痛烈である。
- 7.信じない者たちは、「何故主がかれらに一つの印も下らないのだろうか。」と言う。あなたは一人の警告者に過ぎない。各々の民には一人の導き手がある。
- 8.アッラーは各々の女性が、妊娠するのを知っておられ、またその子宮の（胎児の時）が直ぐ終るか、また延びるかを知っておられる。凡てのことは、かれの御許で測られている。
- 9.かれは幽玄界も現象界も知っておられる方、偉大にして至高の方であられる。
- 10.あなたがたが言葉を隠しても、また声を出して言っても、あるいは夜間に隠れても、また昼間公然と出かけても、（全知の主においては）同じことである。
- 11.各人には、前からも後ろからも、次から次に（天使）が付いていて、アッラーの御命令により監視している。本当にアッラーは、人が自ら変えない限り、決して人びと（の運命）を変えられない。だがアッラーが（一度）人びとに災難を下そうと御望・になれば、それは決して避けることは出来ない。かれらには、かれの外に守護者はないのである。
- 12.かれこそは稲妻を現わしてあなたがたに恐れと希望を抱かせられ、（雨を含む）重い雲を起こさせられる方である。
- 13.雷はかれを譲えて唱念し、また天使たちもかれを畏れて唱念する。かれは雷鳴を送られ、かれらがアッラーに就いて論争している間に、これがかれの御好・の者を撃たれる。かれは力ある強烈な方である。
- 14.真実の祈りはかれに（だけ祈ること）である。かれの外にかれらが祈るものは、決してかれらに答えない。丁度両手を水に差し伸べて、それが自分の口に届く（のを望む）ようなもので、それはかれに届かない。信仰がない者の祈りは、（心が）迷っている（ので無益なこと）に過ぎない。

- 15.天と地上で凡てのものは、好むと好まないとに拘らず、またかれらの影も、朝夕、アッラーにサジダする。〔サジダ〕
- 16.言っやるがいい。「天と地の主は誰であるのか。」言っやるがいい。「アッラーであられる。」言っやるがいい。「あなたがたはかれの外に、自分自身にさえ益も害も(君?)せないものたちを保護者とするのか。」言っやるがいい。「盲人と晴眼者は同じであるのか。また暗黒と光明とは同じであるのか。かれらはアッラーが創造されたような創られたものを、かれと同位に配する。それでかれらには創造の意味が疑わしくなったのか。」言っやるがいい。「アッラーは凡てのものの創造者であり、かれは唯一にして全能であられる。」
- 17.かれが天から雨を降らせられれば、その量に応じて谷を流れ、奔流は浮ぶ泡を乗せて運び去る。また装飾品や道具を造るために(金属)を火にかけても、それと同じ(泡?)(が出来る)。このようにアッラーは、真実と虚偽とを提示なされる。(泡?)は塵のように消え去る。だが人類を益するものは、地上に残る。アッラーはこのように、種々の譬えで説き明かされる。
- 18.かれらの主に答える者には善賞があり、かれに答えない者には、かれらが天地の凡てのものを所有し、またはそれに倍するものを持ち、罪を贖うために提供しても(無益である)。かれらにとっては、悪い清算であろう。その住まいは地獄である。その臥床の何と悲惨なことよ。
- 19.主からあなたに下されたものが、真理であることを知る者と、(盲人が物を見られないように)
物事を見られない者と同じ(ように報いられる)であろうか。心ある者だけが、訓戒を受け入れることが出来る。
- 20.(即ち) アッラーの約束を全うし契約に違反しないで、
- 21.結ばれるようアッラーが命じられる者と一緒になり、主を畏敬し、(審判の日の)悪い清算を恐れる者である。
- 22.また主の御顔を求めて耐え忍び、礼拝の務めを守り、われが糧のために与えたものの中から、陰に陽に施し、また善によって悪を退けるような者は、(善)果の住まいを得る。
- 23.かれらは、その祖先と配偶者と子孫の中の善行に励む者と一緒に、アドン(エデン)の園に入るであろう。そして天使たちも各々の門からかれらの許に入(ってこう挨拶)するであろう。
- 24.「あなたがよく耐え忍んだ故に、あなたがたの上に平安あれ。まあ何と善美な終末の住まいであることよ。」
- 25.だがアッラーに誓った後、その契約を破り、アッラーが結べと命じられる者と縁を切り、地上で悪を行った者には呪いがあり、悪い住まいに入るであろう。
- 26.アッラーは御心に適う者に豊かに糧を与え、また乏しくも授けられる。(かれらは)現世の生活を楽しむ。だが現世の生活は、来世では、(はかない)享楽に過ぎない。

27.信じない者は言う。「何故主からの印が、かれ（ムハンマド）に下されないのですか。」言
ってやるがいい。「本当にアッラーは、御好・の者を迷うに任せ、悔悟してかれに返る者を導か
れる。

28.これらの信仰した者たちは、アッラーを唱念し、心の安らぎを得る。アッラーを唱念するこ
とにより、心の安らぎが得られないはずがないのである。」

29.信仰して、善行に励む者にとっては、至福〔トゥーバー〕がかれらのものであり、善美な所
が（究極の）帰り所である。

30.そこでわれは、以前に多くの民衆が減び去った民の中に、あなたを遣わした。それはわれが
啓示によってあなたに下すものを、慈悲深き御方を未だ信じないでいるかれらに、読誦させるた
めである。言ってやるがいい。「かれはわたしの主であられ、かれの外には神はないのである。
かれにわたしの凡てを御委せし、かれこそあたしの拠り所である。」

31.仮令一部のクルアーンがあつて、それにより山々が移動され、大地が裂かれ、または死者に
語らせることが出来ても、凡ての命令はアッラーに属するのである。アッラーの御心があれば、人
類を一斉に導かれることを、信仰する者たちは未だに納得していないのか。だが不信者たちはか
れらの（悪い）行いのために、アッラーの約束が実現するまで災厄がかれらの住まいとその付近
に絶えることなく付きまとう。本当にアッラーは決して約束を違えられない。

32.（多くの）使徒は、あなた以前に確かに嘲笑された。だがわれは不信心な者たちに猶予を与
え、それからかれらを捕えた。わが報復は如何であったのか。

33.かれは人間各人の行う凡てのことを、監察される御方ではないか。だがかれらはアッラーに
同位の者を配する。言ってやるがいい。「かれらの名を挙げよ。あなたがたは、かれが地上で知
っておられないものを、かれに告げようとするのか。それとも架空な語に過ぎないのか。」いや
そうではない。不信心な者は、かれらの策謀したものが立派に見えて、道から閉め出されたので
ある。アッラーに迷うに任せられた者には、誰も導き手はいない。

34.かれらに対しては、現世の生活でも罰が科せられる。だが来世の懲罰は更に厳しい。かれら
はアッラー（の御怒り）に対し、守護者もないのである。

35.主を畏れる者に約束される樂園に就いて言えば、川が下を流れ、常に果実が実り、日陰に覆
れている。これが、かれら主を畏れる者の結末である。だが不信者の結末は火獄である。

36.わが啓典を与えられた者たちは、あなたに啓示されたものを喜ぶ。だが氏族の中には、その
一部分を拒否する者がある。言ってやるがいい。「わたしはアッラーに仕え、何ものもかれに比
肩してはならないと命じられた。わたしはかれにだけ祈りを捧げ、またかれの御許に帰るのであ
る。」

37.このようにわれは、アラビア語で判断（の規範）を下した。知識があなたがたに下った後、
かれらの（虚しい）欲求に従うならば、あなたはアッラー（の怒り）に対して、援助者もなく守
護者もないであろう。

38.われはあなた以前にも使徒たちを遣わし、妻と子孫をかれらに授けた。だがアッラーの御許しがない限り、何の使徒も印を現わすことはなかった。各時代に、一つの啓典が（下されるので）ある。

39.アッラーは、御好・のものを取り消し、または確認なされる。啓典の母体はかれの御許にある。

40.われがかれらに約束したことの一部を、あなたに示しても、または（その完成前に）あなたの魂をわれに召しても、あなたの任務は（啓示を）伝えることであり、清算はわれの行うことである。

41.かれらは、われがこの地に来て、端々からそれを切り崩しているのを見ないのか。アッラーの御裁き（ある時）、それを妨げるものはない。かれは清算に迅速であられる。

42.かれら以前の者も（使徒に対して）策謀した。だが凡ての策謀はアッラーに属する。かれは各人の行ったことを知っておられる。不信者は、終末の住いが誰のものであるかを間もなく知るであろう。

43.信仰しない者は、「あなたは使徒ではない。」と言う。言ってやるがいい。「わたしとあなたがたとの間の立証者として、アッラーと啓典の知識を持つ者がいれば十分である。」

SURA 14.イブラーヒーム章

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

1.アリフ・ラーム・ラー。われはあなたに、あなたが主の御許しによって、人びとを暗黒から光明に、偉大な讚美すべき方の道に導き出すために啓典を下した。

2.天にありまた地にある凡ての有はかれに属する。厳しい懲罰を受ける不信心者にこそ災いあれ。

3.かれらは来世よりも現世の生活を愛し、（人びとを）アッラーの道から妨げ、曲げようとするものである。これらは遠く迷い去った者である。

4.われはその民の言葉を使わないような使徒を遣わしたことはない。（それはその使命を）かれらに明瞭に説くためである。それでアッラーは、御好・の者を迷うに任せ、また御好・の者を導かれる。かれは、偉力ならびなく英明であられる。

5.且つてわれは、印を持たせてムーサーを遣わし、「自分の民を、暗黒から光明に導き出し、アッラーの日々（諸民族の過去の出来事）をかれらに銘記させなさい。」と（命じた）。本当にこの中には、耐え忍んで感謝する凡ての者への印がある。

6.ムーサーがその民に言った時を思いなさい。「アッラーがあなたがたをフィルアウンの所から救われた時あなたがたに施されたかれの恩恵を思いなさい。かれらはあなたがたを残酷な刑に会わせ、あなたがたの男児を殺し、女兒を生かしておいた。本当にその中には、主からの偉大な試練があったのである。」